

Trados の使い方

第 1 章

はじめに

1. 翻訳メモリーとは何か

翻訳メモリー(TM)は、端的に言えば、原文と訳文の一文ずつの対訳表である。

2. 翻訳メモリーソフトのイメージ

実際に Trados を用いて行う翻訳作業の見本（第 1 章ではさわりの部分のみ）を動画で示す。

3. 翻訳メモリーソフトとは何か

Trados は、市販の翻訳メモリーソフトの 1 つである。翻訳メモリーソフトは、現在翻訳している原文（対訳形式の左欄に表示される）と類似した文を TM から検索して探し出し、類似した文が見つかった場合には、それを訳文欄（対訳形式の右欄に表示される）に表示するソフトである。TM の原文と、現在翻訳している案件の原文との差異（どこが異なっているか）も表示してくれる。このため、原文の差異の部分のみを修正することにより、過去の訳を踏襲した訳が出来上がる。なお、過去の類似案件がない場合であっても、TM はリアルタイムで登録されていくので、現在翻訳中の翻訳も、1 つの文の訳を確定すれば、その訳は、その瞬間に TM に登録されて「過去の翻訳資産」となり、以後の翻訳に活用される。なお、TM は、ファイルであるので、自由にコピーして移動することができるし、電子メールに添付して送付することもできる。

4. 翻訳メモリーソフトの利点

(1) スピードが向上する

過去の翻訳資産を利用できるので、**翻訳のスピードが向上する**。TM に含まれている用語を踏襲できるので、用語を考えたり検索したりする手間も少なくなる。特許翻訳は、その性質上、単一の案件の中でも繰り返しが多い。明細書は特許請求の範囲（クレーム）の解説書であるので、先にクレームを翻訳すれば、クレームと類似する文や表現は明細書中に必ず含まれている。したがって、過去案件の TM がいない場合であっても、TM ソフトを使って翻訳すれば、スピードが向上する。

翻訳のスピードが向上すれば、期限が迫っている案件も受けやすくなり、翻訳会社とのパイプが太くなり、安定的に多数の翻訳を受注しやすくなる。緊急

案件でも引き受けて頂ける可能性の高い翻訳者の方は、翻訳会社にとっては大変有り難い存在である。

(2) 用語や表現の揺れを防止できる

TM を使いながら翻訳を進めるので、過去（今やっている翻訳案件の翻訳が終わった部分も含めて）の表現を踏襲することになり、訳揺れを防止することができ、翻訳の質が向上する。

(3) 訳抜け、訳足しの防止

対訳表形式で翻訳していくので、原文中の一文に対応する訳が存在しないという事態（ときどき生じる）は完全に防げる。また、原文に対して訳が不釣り合いに短い場合や、不釣り合いに長い場合には、訳抜けや訳足しに気付くことができる。

(4) クライアント側のメリット

(i) クライアントが、過去の提出版訳文（日本又は外国の特許庁に提出された訳文）を提供している場合には、クライアントによる校閲済みの訳を踏襲して訳が行われるので、専門用語や表現がクライアントの意図するものとなり、翻訳に対する満足度が向上する。

(ii) 翻訳メモリーソフトを駆使して翻訳を行う場合、一致率（過去の案件との一致及び現在の案件の内部での一致を含む）に応じてワード単価が低くなるので、翻訳料金が安くなるというメリットがある。一致率と単価の関係は、例えば、次のようなものである（なお、割引率はクライアントにより異なる）。

一致率	単価掛け率（通常の料金に対する掛け率）
100%	1 / 4
95-99%	1 / 3
50-94%	7 / 12
50%未満	1 / 1

翻訳単価が安くなるのは、翻訳者にとって不利であると思われるかもしれないが、平均の一致率が高くなるほど、翻訳に要する時間が短くなるので、ワード単価が下がっても時間当りの翻訳料金は下がらない（むしろ上がる場合が多い）。谷川は、過去に英文和訳で、過去案件の TM なしで、Trados を使用して約3万ワードを5時間半で訳したことがある（チェックは除く）。類似の文章の繰り返しが多いバイオ関連案件であったためにできたことであるが、仮にワ

ード単価が1／3になったとしても、これだけのスピードが出れば十分に高い時間給となる。

なお、クライアント側にメリットがあれば、受注の拡大、継続が期待できるため、結果的に翻訳者側にもメリットとなる。

5. 第1章のまとめ

翻訳メモリーソフトを使用することにより、翻訳のスピードが向上し、翻訳の質も向上する。翻訳単価は下がっても、それを補って余りあるスピード向上がもたされれば、翻訳の時給が上がる。

第1章は以上